

2020年（令和二年）

9月11日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.iecej.or.jp>

■ 概況

8/27~9/2のNYMEX・WTI先物市場は、41.51~43.04ドルの範囲で推移した。

9月3日は、米国でドライブシーズンが終盤を迎え、製油所のメンテナンス入りを前に、先行き石油需要の伸びが懸念され、小幅に続落した。米国株価の暴落も悲観要因となった。10月限終値は前日比0.14ドル安の41.37ドル。

週末4日は、ロシアのノバク・エネルギー相が、新型コロナの影響で、2020年の世界需要は900~1000万b/d減少するとの見通しを発言、米国エネルギー情報局(EIA)が8月28日までの週のガソリン需要を前週比4.1%減少したと発表するなど、石油需要の先細り懸念が高まり、3日続落し、3か月ぶりに40ドルを割り込んだ。米国稼働石油掘削は、前週末比1基増の181基で2週ぶりの増加。10月限の終値は前日比1.60ドル安の39.77ドル。

7日は、レーバーデーにつき休場。

連休明け8日は、 사우ジ国営石油(アラムコ)が10月積みアジア向け原油価格の値下げを発表、新型コロナの感染再拡大も懸念される中、米国株価も大幅値下がり、先行き石油需要の伸びが懸念され、4営業日大幅続落した。10月限終値は前週末比3.01ドル安の36.76ドル。

9日は、米国株価の反発やドル高に伴う原油先物の割安感などを材料に、4営業日ぶりに反発した。米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報は3連休のため翌10日に発表の予定。10月限の終値は前日比1.29ドル高の38.05ドル。

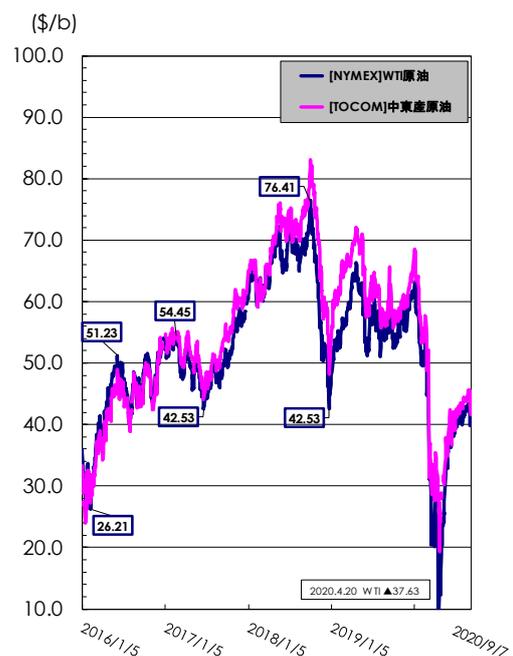
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(10月渡し)は8月27日~9月2日の間44.60~45.30ドルの範囲で推移した。9月3日43.60ドル、4日43.10ドル、7日41.60ドル、8日41.20ドル、9日38.90ドルと推移した。

為替は8月27日~9月2日の間105.36~106.66円の範囲で推移した。9月3日106.24円、4日106.16円、7日106.36円、8日106.31円、9日105.99円で推移した。

財務省が9月7日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、8月中旬の原油輸入平均CIF価格は、28,594円/klで、前旬比675円高、ドル建て43.10ドルで前旬比1.53ドル高、為替レートは1ドル/105.48円。

そのような中で、9月7日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.3円の値上がり、軽油も同0.3円の値上がり、灯油も同3円(18%ベース)の値上がりだった。ガソリンは4週ぶりの値上がり、軽油も4週ぶりの値上がり、灯油も4週ぶりの値上がりだった。この週(9月第1週)の原油コストは値下がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに前週比1.0円の引き下げとなった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	8/30 ~ 9/5	2,465 ▼ -146	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	63.0 ▼ -3.7	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	9/5	13,602 ▲ 555	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	9/7	41.58 ▼ -4.01	▼ -17.6
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	9/8	36.76 ▼ -5.85	▼ -21.1
	原油CIF単価 (\$/bbl)	8月中旬	43.10 ▲ 1.53	▼ -24.29
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	28,594 ▲ 675	▼ -16,834
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	105.48 ▲ 1.29	▲ 1.69
	外国為替TTSレート (¥/\$)	9/7	107.36 ▼ -1.00	▲ 0.59



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/30 ~ 9/5	889 ▼ -38	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	974 ▲ 105	▲ -	
	輸出	"	0 ▼ -12	▼ -	
	在庫	9/5	1,751 ▼ -85	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/1 ~ 9/7	46.0 ▲ 1.5	▼ -10.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/1 ~ 9/7	41.3 ▲ 0.3	▼ -10.4
		(TOCOM/中部)	9/7	42.0 ▼ -0.4	▼ -12.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/7	135.5 ▲ 0.3	▼ -7.5	

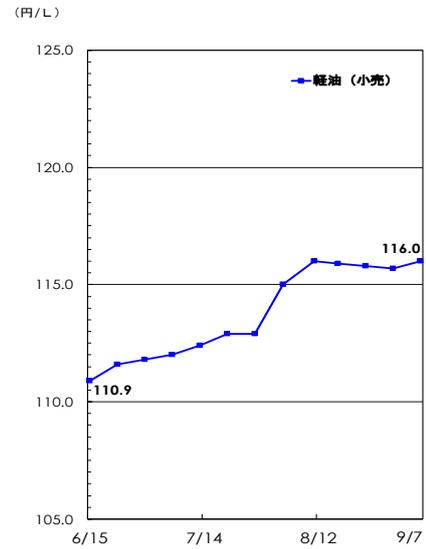
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

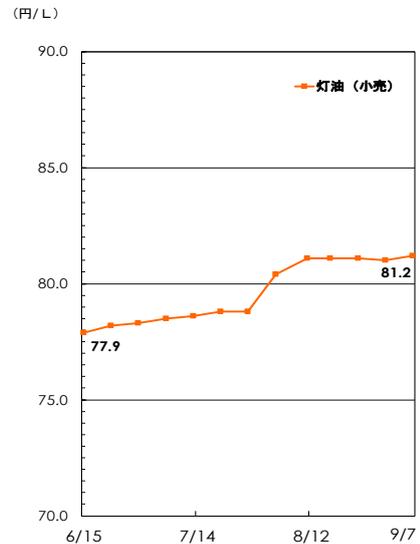
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/30 ~ 9/5	594 ▼ -45	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	616 ▼ -28	▲ -	
	輸出	"	144 ▲ 102	▼ -	
	在庫	9/5	1,653 ▼ -166	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/1 ~ 9/7	48.4 ▲ 1.4	▼ -9.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/1 ~ 9/7	48.3 ▼ -0.6	▼ -11.0
		(TOCOM/中部)	9/7	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/7	116.0 ▲ 0.3	▼ -8.4	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/30 ~ 9/5	166 ▼ -50	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	87 ▲ 55	▲ -	
	輸出	"	24 → 0	▼ -	
	在庫	9/5	2,607 ▲ 55	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/1 ~ 9/7	48.1 ▲ 1.2	▼ -10.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/1 ~ 9/7	42.8 ▼ -0.1	▼ -13.2
		(TOCOM/中部)	9/7	43.5 ▼ -2.0	▼ -12.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/7	81.2 ▲ 0.2	▼ -8.7	



■ 関連情報

1 海外/原油

9月9日のNYMEXのWTI先物原油は、米国株価の反発やドル高に伴う原油先物の割安感などを材料に、値ごろ感からの買い戻しが優勢になり、4営業日ぶりに反発した。ただ、米国の一部やインド、英国の新型コロナの感染再拡大の懸念など、石油需要の先行きに対する警戒感も根強かった。米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報は3連休のため翌10日に発表の予定、また、この日発表のEIAの短期エネルギー見通しは、2020年の世界需要見通しとWTI価格見通しを上方修正した。10月限の終値は前日比1.29ドル高の38.05ドル、11月限の終値は同1.22ドル高の38.41ドル。

EIAによると、9月7日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.1セント値下がり1ガロン2.211ドル(62.6円/ℓ)、ディーゼルは同0.6セント値下がりの2.435ドル(69.0円/ℓ)となった。ガソリンは4週ぶりの値下がり、ディーゼルは2週ぶりの値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2020年8月30日～9月5日に休止したトッパー能力は72.6万バレル/日で、前週に対して35.8万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は246.5万klと、前週に比べ14.6万kl減少。前年に対しては99.0万klの減少。トッパー稼働率は63.0%と前週に対して3.7ポイントの減少、前年に対しては25.2ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて全ての油種で減産となった。ガソリン/4.1%減、ジェット/39.9%減、灯油/23.2%減、軽油/7.0%減、A重油/13.9%減、C重油/15.6%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.5万kl減)。軽油の輸出は14.4万kl(前週比10.2万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でガソリン、灯油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではガソリン、灯油、軽油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は、97.4万kl(対前週12.1%増)と2週連続で増加した。ジェット8.1万kl(対前週13.5%減)、灯油8.7万kl(対前週168.0%増)、軽油61.6万kl(対前週4.3%減)、A重油

14.6万kl(対前週0.3%減)、C重油14.2万kl(対前週5.6%減)。

(単位:千kl)

	今週 (8/30 ~ 9/5)	前週 (8/23 ~ 8/29)	前週比	
ガソリン	974	869	▲ 105	(12%)
ジェット燃料	81	94	▼ -13	(-14%)
灯油	87	32	▲ 55	(172%)
軽油	616	644	▼ -28	(-4%)
A重油	146	147	▼ -1	(-1%)
C重油	142	151	▼ -9	(-6%)
合計	2,046	1,937	▲ 109	(6%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

9月5日時点の在庫は、灯油、C重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェット、軽油が減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンは175.1万kl、前週差8.5万kl減。前年に対しては9.4万kl多い。

灯油は260.7万kl、前週差5.5万kl増。前年に対しては22.6万kl多い。

軽油は165.3万kl、前週差16.6万kl減。前年に対しては4.6万kl少ない。

A重油は71.2万kl、前週差1.9万kl減。前年に対しては0.4万kl多い。

C重油は192.1万kl、前週差2.7万kl増。前年に対しては6.3万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (9/5)	前週 (8/29)	前週比	
ガソリン	1,751	1,836	▼ -85	(-5%)
ジェット燃料	777	789	▼ -12	(-2%)
灯油	2,607	2,552	▲ 55	(2%)
軽油	1,653	1,819	▼ -166	(-9%)
A重油	712	731	▼ -19	(-3%)
C重油	1,921	1,894	▲ 27	(1%)
合計	9,421	9,621	▼ -200	(-2.1%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

9月1日～7日の原油価格は前週比で値下がりし、為替レートは横ばいで、円建ての原油コストは値下がりであったと見られる。

これを受けて、次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社、前週比1.0円の引き下げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

9月1日～7日の製品スポット市況は、8月25日～31日平均と比べ、先物の灯油と軽油の値下がりを除いて、他の取引・油種は値上がりとなった。

直近(9/1～9/7)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週(8/25～8/31)比で、ガソリンは1.5円の値上がり、灯油は1.2円の値上がり、軽油は1.4円の値上がりだった。直近(9/1～9/7)において、ガソリンは99～100円台で値上がり後ほぼ元の水準に値下がり、灯油は47～48円で値上がり後わずかに値下がり、軽油は47～49円台で大きく値上がり後値下がりて推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近(9/1～9/7)に、前週比で、ガソリンは1.3円の値上がり、灯油は0.7円の値上がり、軽油は1.1円の値上がりだった。海上スポット価格は、同期間(9/1～9/7)に、ガソリンは100～101円台で大きく値上がり後やや値下がり、灯油は42～43円台でわずかに値上がり後大きく値下がり、軽油は49～50円台で値上がり後横ばいで推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.3円の値上がり、灯油は0.1円の値下がり、軽油は0.6円の値下がりだった。先物価格は、同期間(9/1～9/7)に、ガソリン93～96円台で値上がり後大きく値下がり、灯油41～43円台で大きく値下がり、軽油47～49円台で値上がり後大きく値下がりして推移した。

(RIM) (単位: 円/%)

ス ポ ッ ト 価 格	陸上ローリー 4地区平均]		前週比
	今週 (9/1～9/7)	前週 (8/25～8/31)	
レギュラー	46.0	44.5	▲ 1.5
灯油	48.1	46.9	▲ 1.2
軽油	48.4	47.0	▲ 1.4

(TOCOM) (単位: 円/%)

先 物 価 格	[期近物/終値] [平均]		前週比
	今週 (9/1～9/7)	前週 (8/25～8/31)	
レギュラー	41.3	41.0	▲ 0.3
灯油	42.8	42.9	▼ -0.1
軽油	48.3	48.9	▼ -0.6

※上記価格は税抜き価格

参考値 (9/1～9/7実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.5	▲ 0.3	▲ 0.9
灯油	▲ 1.2	▼ -0.1	▲ 0.6
軽油	▲ 1.4	▼ -0.6	▲ 0.4
A重油	▲ 1.3		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

9月7日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(8月31日)比0.3円高の135.5円、軽油も同0.3円高の116.0円、灯油は18%ベースで同3円高の1,461円(1%ベースでは同0.2円高の81.2円)。ガソリンは4週ぶりの値上がり、軽油も4週ぶりの値上がり、灯油も4週ぶりの値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは35都道府県、横ばいは1県、値下がり11県となった。全国最安値は徳島県の127.6円(前週比0.9円安)、その次に安いのが埼玉県の129.5円(同0.3円安)、最高値は長崎県の145.7円(同1.0円高)。最も値上がりしたのは、同3.3円高の愛知県(135.1円)、横ばいは秋田県、最も値下がりしたのは、同1.7

円安の滋賀県(131.4円)だった。今週(9月1日～7日)は、原油価格は値下がりし、為替レートは横ばいで、円建ての原油コストは値下がりしたと見られる。次週(9月10日～16日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.0円の引き下げとなった。次回調査時(9月14日)のガソリンの小売価格は、前週の卸価格引き上げの転嫁が続くことから、小幅な値上がりが予想される。

(単位: 円/%)

小 売 価 格	[資工庁公表] [週動向]			直近高値
	今週 (9/7)	前週 (8/31)	前週比	
レギュラー	135.5	135.2	▲ 0.3	08/8/4 185.1
灯油	81.2	81.0	▲ 0.2	08/8/11 132.1
軽油	116.0	115.7	▲ 0.3	08/8/4 167.4

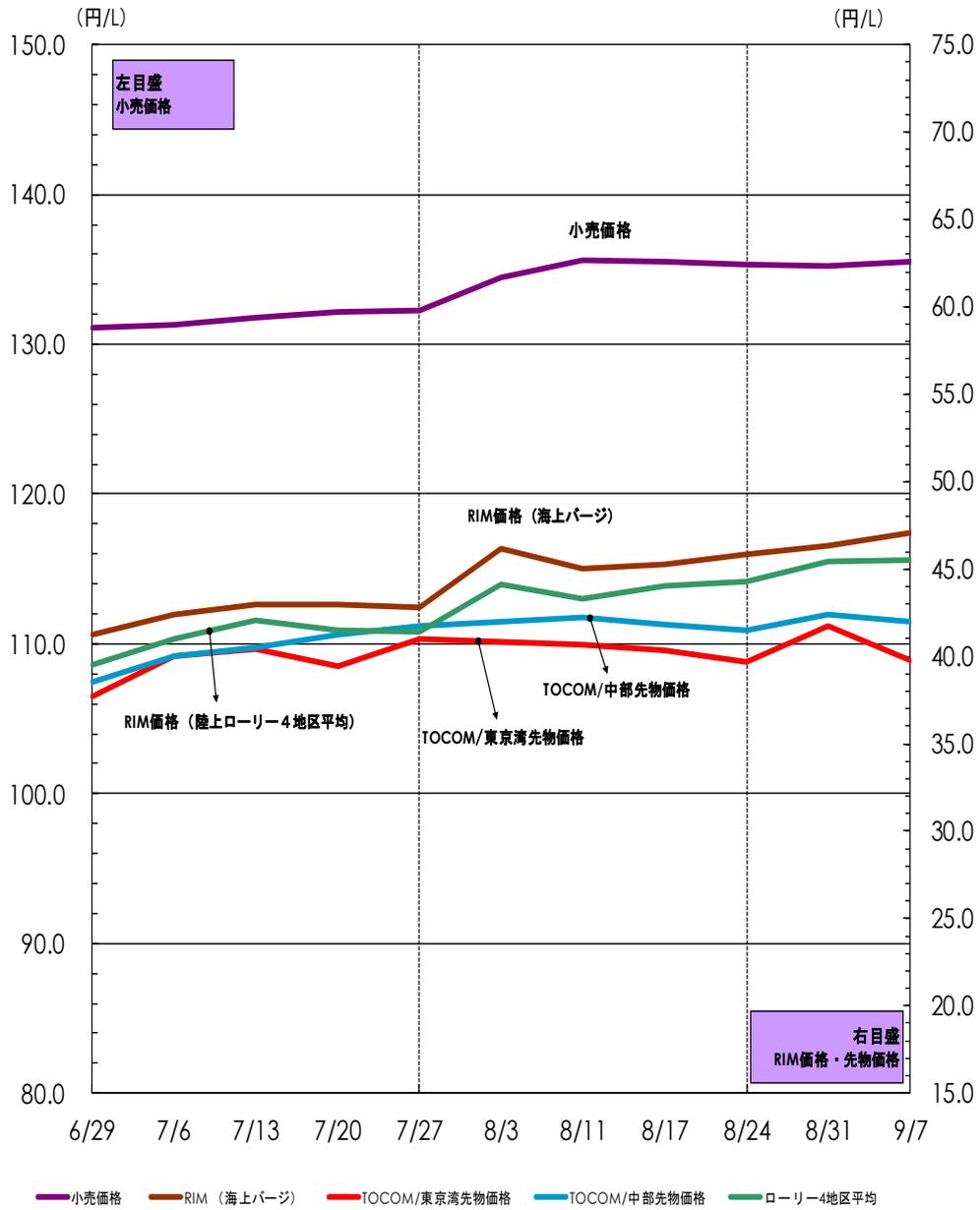
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2020/6/29 ~ 2020/9/7)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2020第12号)の公表は、9/18(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在)は、8月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。